

岩手県が編成する災害派遣精神医療チーム（岩手 DPAT）について

H30. 3. 29 岩手県保健福祉部障がい保健福祉課

1 DPAT の概要

災害が発生した場合、被災地域の精神保健医療機能が一時的に低下し、更に災害ストレス等により新たに精神的問題が生じる等、精神保健医療への需要が拡大する。

このため、被災地域の精神保健医療ニーズの把握、専門性の高い精神科医療の提供、精神保健活動への支援等を行うのが、災害派遣精神医療チーム（DPAT）である。

(1) DPAT の区分

ア DPAT

発災直後から被災した都道府県等において活動できるチームであり、都道府県等（都道府県、政令都市）が定める基準により登録。

イ 先遣隊

DPAT のうち、発災直後から概ね 48 時間以内に、被災した都道府県等において活動できるチームであり、DPAT 先遣隊研修（国主催）を履修した機関を、厚生労働省から DPAT 業務を委託された DPAT 事務局が登録。

(2) チーム構成

精神科医師を含めた下記の職種の数名（車での移動を考慮した機動性の確保できる人数）で構成。

- ・ 精神科医師
- ・ 看護師
- ・ 業務調整員（ロジスティック）：連絡調整、運転等、医療活動を行うための後方支援全般を行う者
- ・ 現地ニーズに合わせて、児童精神科医、薬剤師、保健師、精神保健福祉士、臨床心理技術士等

(3) 活動期間

1 チームあたりの活動期間は、1 週間（移動日 2 日・活動日 5 日）を標準。

(4) DPAT 活動の終結

DPAT 活動における処方数、相談数等の推移を評価しながら、被災地域の精神保健医療機関の機能が回復するとともに、DPAT 活動の引継ぎや、その後の精神保健医療ニーズに対応できる体制が整った時点を目安として、被災都道府県が決定。

2 本県の状況

(1) 本県の DPAT 体制

① 運営要綱等

- ・ 岩手 DPAT 運営要綱（平成 28 年 11 月 1 日）
- ・ 岩手 DPAT 運用計画（平成 28 年 11 月 1 日）

② DPAT 運営委員会の設置

岩手 DPAT 運営要綱の定めにより、岩手 DPAT に対する運営等について協議することを目的として、県内精神科病院等の有識者で構成する DPAT 運営委員会を設置。（平成 28 年 12 月 27 日）

③ DPAT の登録

運営要綱に基づき、岩手医科大学付属病院を岩手 DPAT 指定医療機関として指定し、登録している。また、同病院は、国の先遣隊研修を履修し、DPAT 事務局により先遣隊として登録されている。

(2) 研修・訓練等の実施（平成 29 年度）

○ 県主催

- ・ DPAT 研修（平成 29 年 11 月 26 日） 県内医療機関 45 名参加

○ 国主催

- ・ DPAT 先遣隊研修への派遣（平成 29 年 9 月 13 日～15 日） 岩手医科大学 3 名参加
- ・ DPAT 先遣隊連絡会議への参加（平成 30 年 1 月 16 日） 岩手医科大学 1 名参加
- ・ DPAT 統括者・事務担当者（ロジスティック）研修への派遣（平成 30 年 3 月 6 日～8 日）
2 名（県担当者 1 名、岩手医科大学 1 名）参加
- ・ DPAT 都道府県担当者研修への派遣（平成 29 年 5 月 25 日～26 日） 2 名参加
- ・ 大規模地震時医療活動訓練への参加（平成 29 年 7 月 29 日） 岩手医科大学 3 名参加

(3) 今後の取組

ア 岩手 DPAT の登録

DPAT を出動させる意思を有し、活動に必要な人員及び装備を有すると認められる県内医療機関を岩手 DPAT として登録し、岩手 DPAT の体制強化を図っていく。

イ 研修・訓練

県主催の DPAT 研修の開催及び国主催の研修や訓練への参加により、岩手 DPAT の質の維持及び向上を図っていく。